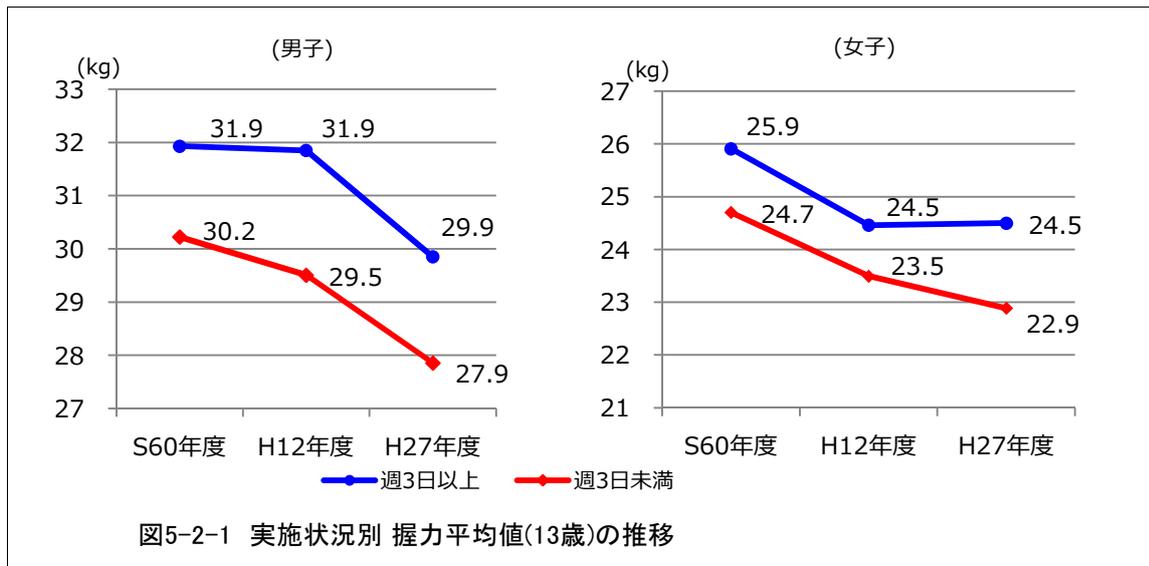


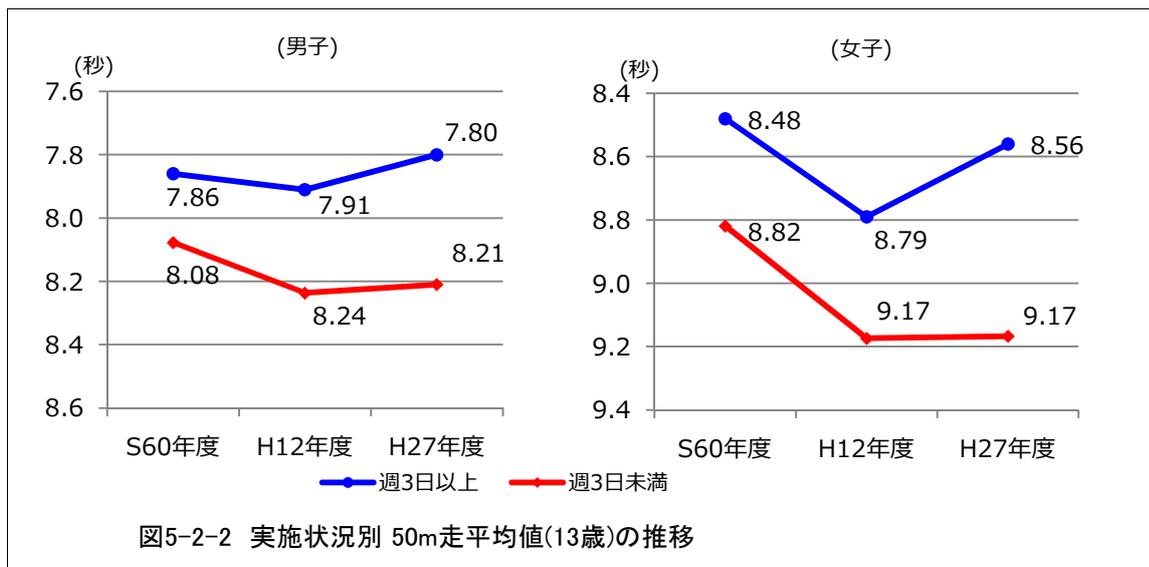
Ⅱ. 青少年の運動・スポーツ実施状況と体力・運動能力の関係

青少年の体力・運動能力は、新体力テスト施行後の18年間の合計点の年次推移をみると、ほとんどの年代で緩やかな向上傾向を示している(図2-19, 20参照)。ただし体力の高かった昭和60年頃と比較すると依然低い水準であると言える。

昭和60年度・平成12年度との握力の推移(13歳男女)を、運動・スポーツの実施状況別に比較した(図5-2-1)。握力は昭和60年度から平成12年度、平成27年度と全体に右肩下がり低下しているが、男女とも実施状況が週3日以上に比べ、週3日未満の群の方が昭和60年度からの下落幅が大きいことがわかる。



同様に昭和60年度、平成12年度及び平成27年度の50m走の推移(13歳)を、実施状況別に比較した(図5-2-2)。50m走は男女とも昭和60年度から平成12年度に低下し、その後27年度は向上しているが、実施状況別に見ると週3日以上に比べ、週3日未満の群はほぼ横ばいで推移していることがわかる。



子供の体力・運動能力は昭和60年頃と比べると依然低い水準にあるが、よく運動している子供に比べ、あまり運動していない子供がより低下している。したがって、今後は運動が不足しがちな子供たちへの対策が重要だと言える。